

(1) 下田小学校

学校長 柴田 満嗣
校内研究代表者 上本 吏絵

1. 研究主題

「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」
～伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

本校は、「やさしく、かしこく、たくましい児童の育成」を学校教育目標に、「友だちにやさしく大切にできる子」「自分で考え行動できる子」「たくましさのある子」を目指す子ども像に掲げている。学力だけでなく、生きていく知恵ややさしい気持ちを持って人と接することができる子ども、自分で考え行動できる自立した子どもの育成に努めている。また、地域の方をはじめいろいろな人との出会いにより視野を広げる体験学習を重視した取り組みを通してコミュニケーション能力の育成を図ってきた。

本校の児童は、じっくり話を聞くこと、丁寧な作業をすることなど、粘り強く取り組む力に課題がみられる。また、適切に言葉を使って、自分の思いを相手に伝えることを苦手とする児童も少なくない。そのために、意思の疎通がうまくいかず、友だち関係に悩む姿も見られる。

授業では、スタンダードに基づいた授業展開をしていくことに加え、一昨年の課題として出てきた「シンプルな導入」「個人思考を確かなものに」「深い関わり合い」「的確な振り返り」を共通理解し取り組んできた。また、授業研究では、西部教育事務所から講師を招聘し事前研究では指導案の検討を行い、事後研ではK・J法で課題に迫る協議を行ってきた。授業には、一定の統一性を持つことができた。

しかし、各種学力調査の結果から、学年を問わず共通して言えることは「記述式」や「数学的思考」、「図形」に課題がみられた。また、「数量関係」や「数量や図形についての知識・理解、技能」でも課題が見られる学年が多い。

このような実態から、基礎・基本の定着を重視するとともに、図形の性質や成り立ちや考え方を文章や図に書いたり数直線に表したりするなど、数学的な考え方を伸ばしていくことを全体共有した。

そして、日々の授業作りにおいては指導事項を明確にし、自力解決や振り返りの時間を大切に、伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりをめざしていきたいと考え、研究主題を「自ら課題を追究し、主体的に学ぶ子どもの育成」と設定した。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織

- ・全体会（校内研究・職員会）
- ・企画委員会・・・第1月曜日（校長・教頭・教務主任・研究主任・事務）
- ・ブロック・・・必要時
- ・部会（学習部・集団作り部）

(2) 授業研究

- ・算数科の授業研究を各学年で行う。
- ・外国語の授業を高学年で1本行う。
- ・道徳の授業を1本行う。
- ・事前研では、指導案検討やブロックで、模擬授業を行う。

- ・事後研では、4つの視点にそって KJ 法でよかった点、課題や改善点を出し合い課題解決に迫り、次の授業に生かしていく。
- ・参観者は、授業後に授業参観者カードを記入する。

4. 研究主題具現化の視点

① 基礎基本の定着

- ・下田小スタンダードを徹底する。
- ・指導事項の確認
- ・学習計画を提示（見通しを持たせる）
- ・キラリ（朝学習）の時間に計算の反復をする。

② 伝え合う力をつけるため

- ・発表朝会
- ・班学習、ペア学習等で関わり合う授業作り
- ・言語活動を取り入れた授業の展開
- ・話し方（聞かせる）工夫

③ 語彙をふやすため

- ・辞書の活用（全校一人一冊） 辞書引き大会の実施（年間2回）

④ 書く力をつけるため

- ・感想文・行事作文を計画的に実施
- ・要点をまとめる活動の場を設定
- ・グッドノート賞（自主学習）
- ・授業の中で頻度を高める（自力解決・振り返りなど）

5. 今年度の成果と課題

- 算数科を中心に、講師を招聘しながら学習を進めてきたことで、能力ベースの授業づくりを意識し取り組むことができた。
- 授業研究では、同じ視点を持って参観できたので、ポイントをしばって学ぶことができた。
- ブロックで教材研究をしたことで、授業のイメージをもちやすくなり、よかった。
- 全学年が授業を実施し、協議をしたり、講師の話を聞いたりすることで、授業づくりについて学ぶことができた。また、各学級の学習の様子も理解することができた。
- 校内到達度テストの漢字を新しくして、わかりやすくなり、取り組みやすくなってよかった。
- 帯タイムの学習では、算数では基礎的な計算、国語では漢字の定着に向けて取り組むことができた。
- ICT 機器やホワイトボードなど教具に限りがあるため、児童の主体的対話的な学習を効率よく行うことが難しい。
- 学力調査から「書くこと」や「表現力」に課題が残った。授業の中で、「書くこと」や相手に分かったこと等を伝えるアウトプットの力をつけていきたい。
- 研究授業が算数・道徳・外国語とあり、なかなか日程的にも厳しかったので、道徳や外国語等は、夏季休業中などの研修とするなど、来年度は、方法を考えていく必要がある。

